



大原美術館館長
東京大学名誉教授
たかしな しゅうじ

高階秀爾氏

静岡県立美術館館長
東京大学名誉教授
はが とおる

芳賀徹氏

静岡県知事

かわかつ へい た
川勝平太

知事
平太

富士の国づくり。霊峰・富士に立脚した、

平成27年2月23日、「富士山の日記念行事」が静岡市の日本平ホテルで開催された。「富士山の日」を祝う今回の式典では、芳賀徹静岡県立美術館館長、高階秀爾大原美術館館長と川勝平太静岡県知事による記念鼎談が行われ、没後400年を迎えた徳川家康公の功績を振り返るとともに、富士山の持つ可能性や、静岡県と日本の未来について語り合った。

徳川の平和 「パクス・トクガワナ」

知事 今年(2015年)は、徳川家康公が1616年4月17日に74年の生涯を終えられて400年の節目で、県では「400年祭」を展開しています。「富士、二鷹、三茄子」で知られる富士山は家康公にとつて格別の存在でした。すでに2011年2月23日の「富士山の日」に家康公の事績に学んだ「平和宣言」を行っています。一部を紹介します。

『戦乱の世を終わりにし、平和な社会の建設を始めたのは、ほかならぬ「ふじのくに」が生んだリーダー徳川家康公であった。我々は郷土が育てた、この偉大な先人の業績を思い起こしたい。そして、家康公が幼少期から富士山を仰ぎ見て育ったことをも想起したい。類まれなる美しい霊峰は、環境や生命の破壊を戒める声なき声を発している。』

『鉄砲は16世紀における最先端の武器であった。核兵器は現代における最先端の武器である。かつて日本は鉄砲の使用を抑制し、実質的に鉄砲を放棄した。そして平和な社会を建設した。その歴史的经验

「パクス・ブリタニカ」「パクス・アメリカーナ」などの用語を踏まえ、西洋との比較文明的な見地に立った用語ですね。芳賀先生はパクス・トクガワナをどのように特徴づけているのですか。

芳賀氏 パクス・トクガワナと言いますのは、徳川家康公が江戸に幕府を開いた年から、ペリーの艦隊が浦賀にやって来た年まで、1603年から1853年までの250年間の期間を指します。この250年間、日本列島はこの国内に完全な平和を築きあげ、維持し、これを楽しみました。これは非常に際立った特徴を持っています。パクス・ローマ、ローマの平和でも、イギリスの平和でも、アメリカの平和でも、武力によつて自分の帝国の範囲内を平和に律しました。これに対し、徳川の本は、いまの知事のお話のように、鉄砲を捨て、刀狩りも行い、朝鮮との平和外交を回復させ、中国、オランダとの商業関係を安定させました。

なぜこのようなことが可能だったのか。家康公がよく民衆の心を知り、東西世界の情勢に通じていたからですが、もう一つ挙げれば彼は若い時、今川義元の人質としてずっと駿府で育った。また晩年は、16

にならうならば、我々は核兵器の抑制・縮減・廃絶が可能であると信じる。我々「ふじのくに」の士民は、徳川家康が主導した平和社会の建設の経験を、現代において学び直すべき平和実現の模範的事例として、広く世界に紹介し、富士山のごとく美しく平和な姿の建設に邁進することを、ここに宣言する。」

本日は、徳川時代について比較文化・文明論の観点から多くの著書のある芳賀、高階両先生から、徳川の平和や富士山を、今日の静岡県や世界のためにどのように活かしていけるのか、御知恵や御高見をうかがいたいと思います。

まず、徳川の平和について、世界に通ずる「パクス・トクガワナ」という言葉で提唱されたのは芳賀先生でした。

芳賀氏 そうですね。この前、1960年代に書いた自分の論文を読んでみましたが、もうその中に「徳川の平和 パクス・トクガワナ (Pax Tokugawana)」という言葉を使っておりましたので、確かだろうと思っております。

知事 「パクス・トクガワナ」は、西洋史における「パクス・ローマ」に03年に征夷大將軍になると、その2年後、秀忠に將軍職を譲って、自分はまだこの駿府に引き上げ「大御所」となりましたね。そうやって、朝な夕な富士山を仰ぎ見ながら家康公はものを考えたから、あの平和ができたのではないか、そう考えてみるのも面白いでしょう。





大原美術館館長
東京大学名誉教授

たか しな しゅう じ
高階秀爾氏

1932年生まれ。美術史学者。東京大学教授、国立西洋美術館館長等を経て現職。ルネサンス以降の西洋美術研究と近代日本美術の評論で知られる。フランス芸術文芸勲章オフィシエ章、文化勲章等を受章。

知事 富士山は和の心の源泉です。

芳賀氏 富士山を若い頃から見ていれば、心に宿るのは平和への願いです。それから心の豊かさ、寛大さ。そしておのずから神話の世界につながる。美術の世界につながる。詩歌の世界につながる。

高階氏 そのとおりだと思います。パクス・トクガワナーナの250年間に、実際には大坂の陣がありましたが、ちょうど家康公が亡くなられた頃に、いわゆる元和偃武という、正に武を止める時代になりました。ヨーロッパではこの時期、つまり17世紀は、宗教戦争による大変な虐殺が続いていました。そして、18世紀はいわゆるスペインの王位継承戦役が続き、19世紀になると、

イギリスをはじめとする世界制覇が始まりました。おそらく、その二百数十年の間、ヨーロッパでは、平和だった時期は数年と続いていると思います。どこかで戦争をやっていました。

日本で二百数十年間戦争がなかったことは、世界的に見れば特別なことです。それは、家康公の大変見事な政策の成果であったと思います。もちろん、家康公だけの功績ではないのですが、鉄砲など全部捨てて、しかもただ捨てたのではなくて、火薬を使って花火を作り出した。大変美しい、美意識に育て上げたわけですね。武力を美しいものへと変えていったというのが、徳川の世です。

家康公は征夷大將軍になった

後、まず江戸に行つて江戸城を築きます。江戸城に、富士見櫓というものがありました。「ふじ見不死」ということで、戦の時の不死身と掛けていますが、実際に富士山が見える。家康公は、暇があると富士見櫓で富士山を見ておられたようです。そして、最後に駿府に来て、真正面に富士山を見ながら国づくりを行いました。政治的には、大名諸侯を全国に大変見事に配置しました。戦争ができないようにしてしまつたわけですね。これにより、国内の農業、商業、工業が発展します。当時の人々は、平和であったと同時に、西洋の一般の人々と比べても豊かであったと思います。

一方で、例えば、18世紀にゲートがイタリア旅行に行く際には、恐

くてピストルを持って行つたわけ

です。
芳賀氏 確かに18世紀半ばまでのヨーロッパの道中というのは恐いし、危ないものだったようですね。徳川の日本にやってきた西洋人たちはみな、日本では女子供まで平気で街道を旅するのを見てびっくりしていますよ。

高階氏 芸術家がイタリアに行く時は、ピストルが必要という状況だった。一方、日本では道路もきれいで、追いはぎが出て金を奪つたり、人を殺したりということがない。そういう平和の中で、優れた活動が行われていた。道路がよくできているということは、交通、通信、運輸、つまり経済活動にも非常に良い影響があります。

芳賀氏 その道路を使って、徳川家光が始めたのが参勤交代。これにより、列島の北の端や西の端から、それぞれが一年おきに江戸に出てくるわけでしょう。奥さんと娘は江戸に置いておいてね。

今まで参勤交代は、妻と子供を江戸の人質にして大名が地元で反乱を起こすことができないようにしていると言われてきた。そういう意図も最初はあったかもしれないけれど、奥さんや娘たちから見れば、田舎に帰るよりは、江戸にいて一年中、今日は歌舞伎、お花見、明日は舟遊び。それで鰻を食べようとか、もう嬉しくてしょうがない、という状況だったでしょうね。

参勤交代があるから、道路が更に良くなる。道路が良いから参勤

交代の時にお互いによつからない。ちゃんと上り下りのダイヤグラムまで作っていたそうです。しかも参勤交代の大行列はあちらこちらの宿場に泊まつていくわけでしょう。

要するに、大名はお金を貯えたり借りたりし、それを行く先々の民衆に配つていたことにもなりますね。これが情報、文化、産業、経済の交流と活性化をもたらしました。

家康公が始めた幕政というのは、300近い大中小の大名を実に上手く配置して、お互いに手も足も出ないようにした。だが、そうすると徳川の日本は、動かなくなつて沈滞しそうになる。それが参勤交代により、列島東西の文化も諸制度もまるで洗濯機の中に入れたように攪拌されて、交流し活性化しま

した。学問も産業も、技術に関する新知識や歌舞伎の情報、俳句の傾向のことなど、列島の隅から隅まで広まつていったわけですね。

高階氏 ええ。それはもう家康公の考えは、非常に見事だった。人質ということもあるかもしれないし、参勤交代によりお金を遣わせるという目的もあったと思います。大名行列という、何百人、何千人が移動することとなり、大変なお金が掛かります。さらに加賀100万石や島津73万石などの大大名は、もつとお金が掛かる遠い場所に置くわけですね。非常に見事な政策です。戦争、つまり大名からの反乱は困ります。その対策として、やたらに軍備を組むのではなく、間にちよつと天領なんかも入れてお

いて、大名を上手く配置することで、一般の人々に富が行き渡るような政策をしたのです。

知事 徳川の政治体制は幕府と藩から成る「幕藩体制」です。中央と地方の絶妙なバランスが働いていましたね。
芳賀氏 セントラルガバメントとローカルガバメントに分かれていて、中央集権と地方分権の釣合いをちゃんと守つて、相互に牽制しながら、相互に平和を維持する。そして、諸藩はそれぞれに独自の文化を生みだし、それぞれに殖産興業を競い合つて地元の名物を作り出さ。何とかの団子、饅頭、砂糖、紙、ろうそく、油、蕎麦、そういつた物を作つて特産物にしていく。それが今も各地に残っていますね。

藩も農民も米作以外のそういった殖産興業に熱心で、藩内にまだ開発されていない土地があれば、農業技術を進歩させて開発する。農器具や灌漑技術を新しく工夫する。それで経済が豊かになっていく。経済が豊かになると、今度は文化が豊かになる。文化が豊かになると、歌舞伎、能、俳句、漢詩、浮世絵、園芸、それに鳥や金魚などのペットの飼育まで盛んになり、ひろがり、人々の生活を豊かに面白くしていく。そういうものが熊さん八つさん

近代化に、徳川文明のどの側面がどれくらい役に立ったかというように従来の見方は、一種の合理的、進歩主義的な史観でしょう。そうではなくて、何も明治維新後の富国強兵には関わりがなかったよいうなものまで含めて、我々はずっと徳川文明を丸々見直して評価しなければいけないと思います。

富士山を中心とした日本の美意識

知事 徳川時代は「近代以前の後れた封建社会で、近代化が始まったのは欧米の影響を受けてからだ」という誤った通念もあります。
芳賀氏 そうですね。

知事 徳川の文化は、調べてみると、近代の欧米社会に影響を与え



知事

霊峰・富士に立脚した、
富士の国づくり。

静岡県立美術館館長
東京大学名誉教授

は が とおる
芳賀 徹氏

1931年生まれ。専門は、近代日本比較文化史。東京大学教授、京都造形大学長等を経て現職。近世・近代の日本における西洋文化の影響等をテーマにした数々の研究で知られる。紫綬褒章、瑞宝中綬章等を受章。



霊峰・富士に立脚した、富士の国づくり。



高階氏 そうですね。与えた影響は非常に大きいと思います。例えば葛飾北斎が「富嶽三十六景」を描きました。富士山というのは大変見事な美しい山ですが、東海道を歩いて、場所によって見え方が少しずつ違ってくるわけです。のみならず、四季の移り変わりがあつた。しかも朝昼夕で違つていて、三十六景もある。そして三十六景で済まなくて、十景追加している。さらには「富嶽百景」まで描く。あるいは広重の「東海道五十三次」もそうです。見る場所で違う。見事に統一がとれた山でありながら、変化に富んでいるという。その多様さを、画家達はいろいろな形で表現しているんですね。それが豊かな日本の芸術表現に結び付いているのだと思います。

芳賀氏 南フランスの、エクス・アン・プロヴァンスの町のすぐ北に、サント・ヴィクトワールという山がある。あの山をポール・セザンヌは何通りも描いていますね。あれはどう見ても、北斎の影響でしょう？

高階氏 そう思いますね。

芳賀氏 このことを、フランスは認めたがらないんですよ。セザンヌは「ジャポニスムと関係ない」と言っ

て。でも、どう見ても、一つの山をあつちからこつちから違う時間に、松の木を入れたり、汽車を走らせたりしていろいろ描く。セザンヌの頭にもともとそんな発想はなく、北斎の影響以外に来ようがないんじゃないですか。

高階氏 そうです。

芳賀氏 あの頃まで、ヨーロッパにあんな特定の山の絵を連作にした者は誰もいない。

高階氏 実際、サント・ヴィクトワール山は有名ですけど、セザンヌ以外、地元の人はいくらもあつた。あつたと言われて気が付いた。

芳賀氏 でも描かれてみると、良い山ですね。

高階氏 だから芸術が自然と一つになつていくのです。芸術には自然と一つになつて、我々と自然を結び付けてくれるという力があつた。

知事 わたしたちのいるこの会場は、有度山頂上の日本平ですが、ここには中心性があります。山の麓に草薙の総合運動場、日本平動物園、芳賀先生が館長の静岡県立美術館、県立図書館、県立大学、SPAC（静岡県舞台芸術センター）などがあります。また谷を隔てて、家康公を祀る久能山東照宮があり、眼

下には駿河湾の清水港には三保松原。日本平は、富士山を仰ぎ見るだけでなく、三六〇度の展望がきく、まさに中心です。

高階氏 そうですね。

知事 なかんずく富士山です。家康公の富士山への思い入れが大きな政治的・文化的影響力をもつて、日本人全体にとって富士山は大切な山となつた。富士山はまた、日本人の自然に対する畏敬の念と、風景への美意識を育みました。富士山が日本の国土のシンボルになつたのは徳川時代ではないでしょうか。

芳賀氏 実際武士も民衆も旅をして、本当に富士山を自分の眼で見られるようになりましたからね。

知事 参勤交代だけでなく、民衆もね。

「富士の国」づくりに向けて

知事 静岡県では「平和宣言」と同じ平成23年2月23日に「ふじのくに」づくり宣言を出しました。富士山は美しいので、美しい人、美しい心、美しい地域、美しい日本をつくつていこう。富士山は調和した姿なので、和を大切にしよう。富士山は人間の力を超えた活火山なので、畏敬の念をもちつつ、危機管理を怠らないでおこう。富士山は四

季折々の姿を我々に見せるので、季節に鋭敏な感性を磨こう。

また富士山は、いろいろな漢字で表記されてきました。今日の「富士」の富は物の豊かさを、士は学徳のある人を表しています。物心のバランスが取れることを大切にしよう。また、「不死」の字を当てられたこともあり、そこから長寿を寿ごう。「不二」とも書かれ、二つはないということ、英語ではオンリーワン。一人一人、一つ一つの物を大切にしよう。常陸国風土記では「福慈」と書かれていますから、幸福で思いやりのある人になりましょう。等々、富士山から導かれる価値を盛り込んだのが「ふじのくに」づくり宣言です。霊峰・富士に立脚した「富士の国づくり」に関連して、一言ずつ

お願いできればと思います。

高階氏 富士の国づくり、これは本当に駿河の国のみならず、日本、そして世界の国づくりにつながります。科学文明は非常に成果がありました。優れた機械技術、生産技術、同時に武器、戦争の技術を作りました。一方日本も、大変な戦国時代がありました。その後、芳賀さんの言われる徳川の平和の時代を、見事に作り上げた、それが「富士の国」であります。富士山を中心に、皆で富士山を見ながら、伝統を受け継ぎ、家康公をはじめとした江戸の人々が平和な時代を作つていったのでしよう。これから我々も、知事の御指導も仰ぎながら「富士の国」を頭に置き、世界に結び付く平和な国を作つていき

たいと思います。

芳賀氏 そうですね。それから、不安になつたり腹が立つたりしたら、外に出よう、そして富士山を眺めよう。さまざまな古典を通じて私たちの心に富士山を抱こう。しかも富士山は強大なマグマを抱いている。ただ優美なだけではなく、最も強力に男性的な力を内に秘めながら優美な姿をしている。キリマンジャロも立派だろうけれど、とても、富士山のように優美で、しかも中に力を込めているというようにはならないのではないか。

知事 富士山は、芸術、信仰の源泉であるばかりか、人の生き方をも無言で教えてくれる霊峰ですね。

徳川時代を封建時代と言う人がいますが、封建制は支配者が土

地を領有する制度です。では、徳川時代の支配階級・武士は土地を持つていたのか。明治維新の地租改正で全国の土地所有者を確定したのですが、所有者は農民でした。武士は土地を持つていなかったのです。では、武士は何を持つていたのでしょうか。学問です。武士は、例外なく学問をおさめた。ですから、庶民から敬まれ、失業した武士は寺子屋を開き、その数は数万もありました。明治の学制で小学校があつたという間にできたのは、寺子屋があつたからです。

「富士の国」の「富」は物の豊かき、「士」は学徳のある立派な人のことです。「富士」は、富は立派な有徳の人に支えられるべしというメッセージをもつた漢字です。国は富国

徳、会社は富社有徳、人は富者有徳が理想です。その理念が「富士」の漢字にこめられています。

芳賀氏 それで、徳川幕府が終わる時にまた第十五代徳川慶喜公が駿府に来るわけですからね。

知事 徳川の世の始まりと終わりが、富士山を仰ぐ駿府でした。

芳賀氏 始まりと終わりが駿府です。いいじゃないですか。

知事 二年前（2013年）に富士山は、世界文化遺産に登録され、いまや世界の宝です。富士山と平和が結びついた徳川の知恵を学び、「パクス・トクガワーナ」の用語を世界に発信していきます。また、「富士の国づくり」を実践してまいります。両先生、本日はありがとうございました。